

オンライン・医学教育シンポジウム

医療におけるアートとは？

～人への“構え”の視点から

日時：2021年7月10日（土）13～16時

プラットフォーム：Zoom ミーティング

形式：パネルディスカッション

定員：80名

参加費：1000円

Peatixにてチケットを購入した時点で申し込みが完了します。

申込先：<https://art-in-medicine.peatix.com/view>

お問合せ：office@dipex-j.org



登壇者（50音順・敬称略）

大滝純司

（東京医科大学・医学部）

倉島哲

（関西学院大学・社会学部）

佐藤幹代

（自治医科大学・看護学部）

道信良子

（札幌医科大学・医療人育成センター）

和田恵美子

（DIPEX-Japan・看護学）

司会 佐藤(佐久間)りか
(DIPEX-Japan)

主催 認定NPO 法人健康と病いの語り
ディベックス・ジャパン

“The practice of medicine is an art, based on science.” ——医療はサイエンスにもとづくアートである

近代医学の父と呼ばれるオスラーのこの言葉はたびたび書物に引用されています。現在、科学的データの蓄積が進みつつある新型コロナウイルス感染症の拡大と向き合うために、今こそ医療におけるアート（わざ・技法）が求められているのではないのでしょうか。

本シンポジウムでは、医療における art を考えるための概念として、医療と同じく人に相対するための“技”（対人技法）である武術から「構え」というキーワードを借りて思考を巡らせることにしました。

真の武術の「構え」は「構えてしまわないこと」です。人と向きあい、相手の心身の状態、変化に即応していく能力が医療者にも求められます。

医療のアートを武術に結びつけるという本企画のために、医療者教育に深い実践経験を持つ方々と、武術における身体技法とその習得について社会学の立場から研究されている方が、それぞれ自由に発想を膨らませ、医療のアートに新しい視座を提供するべく議論します。

——ぜひ皆様、この貴重な機会をお見逃しなく！